

まちの駅クロスピアくみやま における官民連携による利活用促進に向けたサウンディング型市場調査【概要】

まちの駅クロスピアくみやまは平成22年4月に供用を開始し、令和3年4月で丸11年を迎えました。本町の案内・休憩及び産業の情報発信拠点施設として設置し、これまでの間に様々な事業を実施してきましたが、より効果的な利用となるよう、本施設の管理運営について、民間事業者との対話を通して市場を把握するとともに、指定管理者制度を視野に入れ、広く意見・提案を求めるサウンディング型市場調査を実施します。

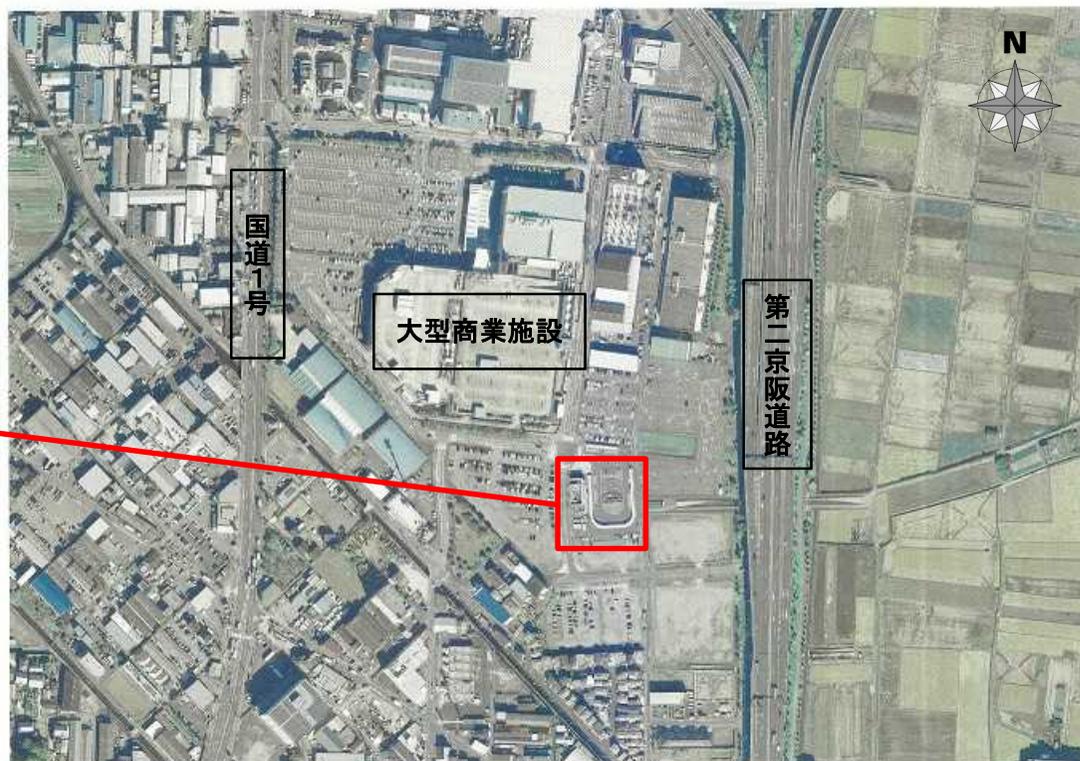
まちの駅クロスピアくみやま

産業情報発信拠点、町内企業の連携の拠点として、また、公共交通のハブ施設として、多くの機能を有しています。本町の産業を活性化するために重要なシンボル施設です。



京都府久世郡久御山町森南大内303番地

まちの駅：地域住民や来訪者が求める地域情報を提供する機能を備え、人と人の出会いと交流を促進する空間施設

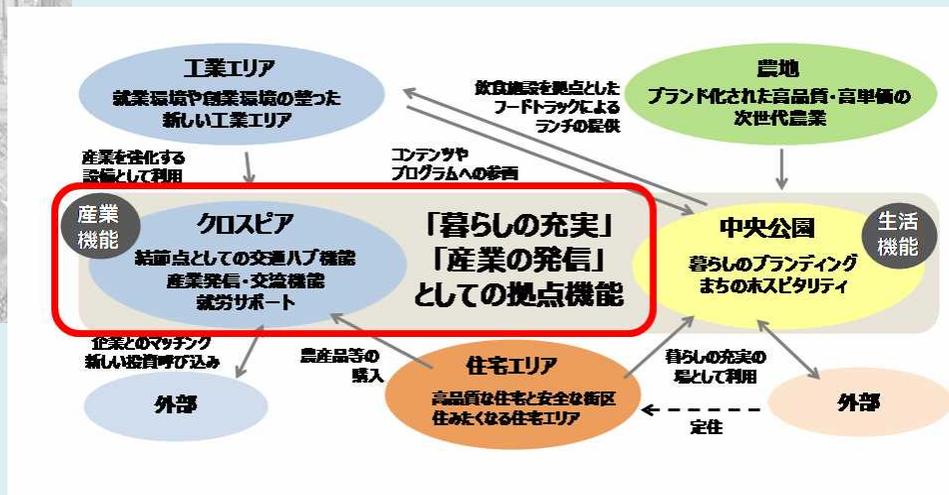
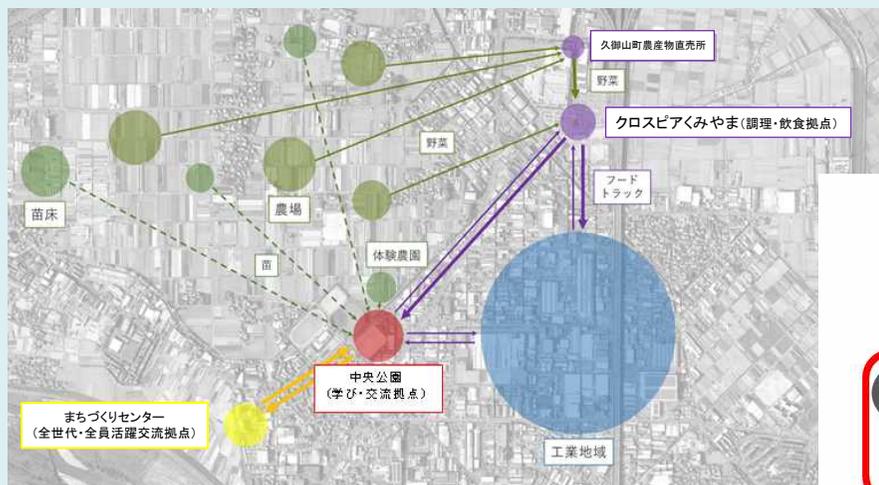


まちの駅クロスピアくみやま における官民連携による利活用促進に向けたサウンディング型市場調査【概要】

久御山「まちのにわ」構想について

「久御山中央公園」及び「クロスピアくみやま」を活用して、「食」戦略に基づいた住×農×工の交流を促すためのビジョンとして、2019年2月に久御山町と京都大学 山口准教授によって「久御山“まちのにわ”構想」が策定されました。

本構想では、住「憩いと食が楽しめる魅力的な住環境づくり」・農「農業を知り、学び、体験できる環境づくり」・工「地産地食による健康な就業環境づくり」のそれぞれの環境づくりを計画しています。



まちの駅クロスピアくみやま における官民連携による利活用促進に向けたサウンディング型市場調査【概要】

施設の概要①



駐車場23台・駐輪場60台



レンタサイクル10台

周辺の土地利用
にぎわい施設の誘致活動展開中



クロスピア市
隣接の大型ショッピングセンターは
年間約1,000万人の利用



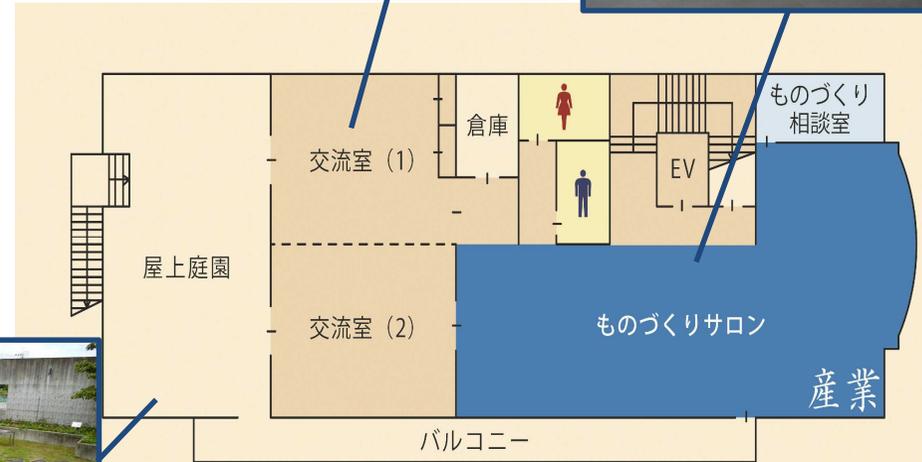
バスターミナル併設
公共交通バスのハブ
約1,000人/日・平日

まちの駅クロスピアくみやま における官民連携による利活用促進に向けたサウンディング型市場調査【概要】

施設の概要②



- A: バス運転手控室
- B: スタッフ用トイレ
- C: スタッフ用休憩室・ロッカー
- D: バックヤード
- E: 加工室1バックヤード



隣接の農産物直売所は約1億円を販売



まちの駅クロスピアくみやま における官民連携による利活用促進に向けたサウンディング型市場調査【概要】

まちの駅クロスピアくみやま利活用イメージ

	利用イメージ
1階部分	軽飲食等バス待ち利用者のニーズをベースにした事業 (+ニーズに応じ工業エリア支援機能(町内商工業や商工事業者のPR等))
2階部分	貸室(既存)(例:企業研修、会議、商談、懇親会 等) 産業のゲートウェイ機能(例:企業PR(展示会)、就域セミナー 等) 施設運営事業者自身での企画(例:交流イベント、こども向けプログラム 等) まちづくりセンター関連プログラム(例:多世代交流、生涯学習講座 等) 等
その他	レンタサイクル、フードトラック実施調整

利活用促進につながる施設整備や内・外装、事務機器整備等についても、ご提案をお願いします。